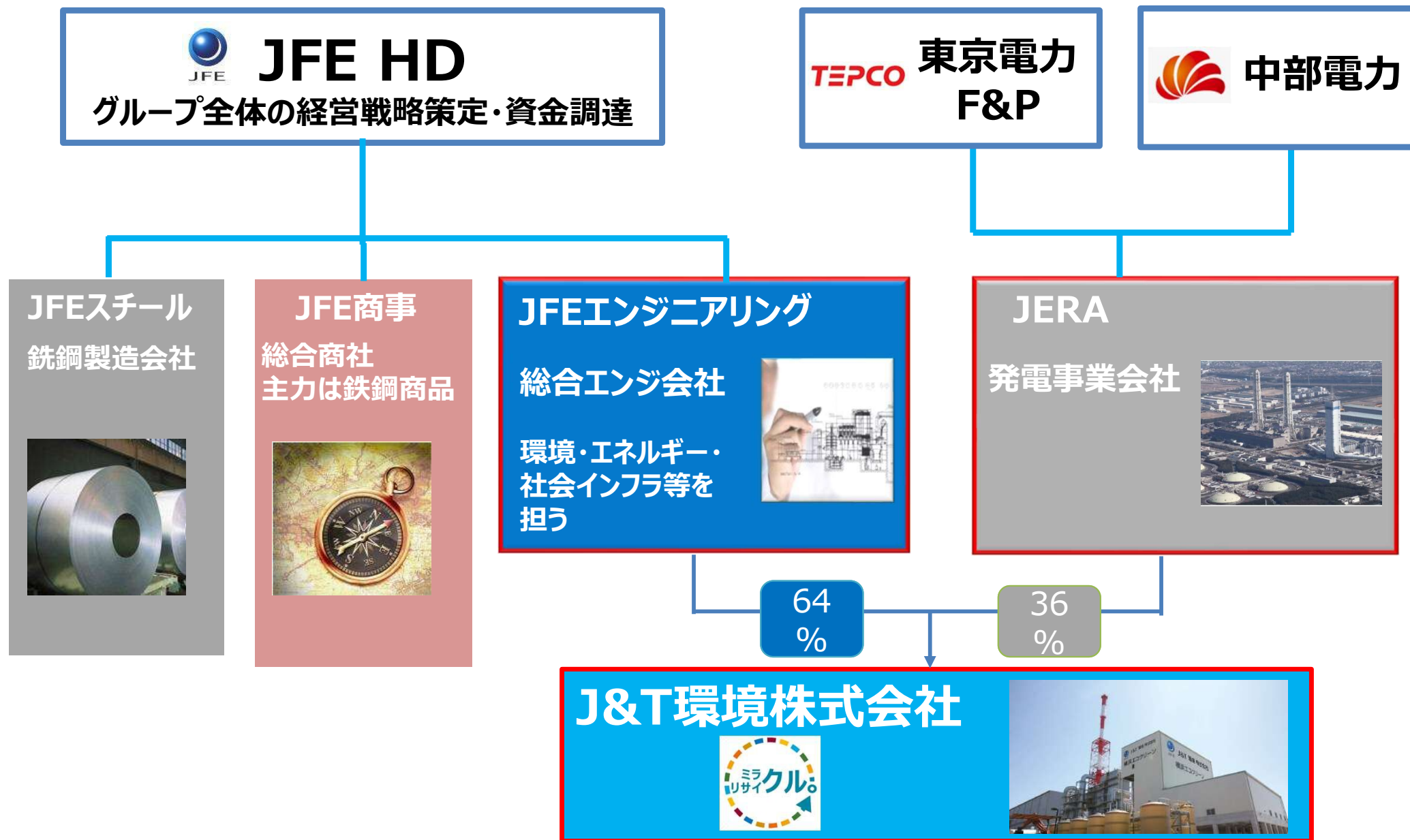


J&T環境Grの食品リサイクルにおける サーキュラエコノミーの実現

J&T環境株式会社
食品リサイクル事業部 平林 伽奈子
2025年2月18日

I 会社 & 施設概要



現在の事業構成

4



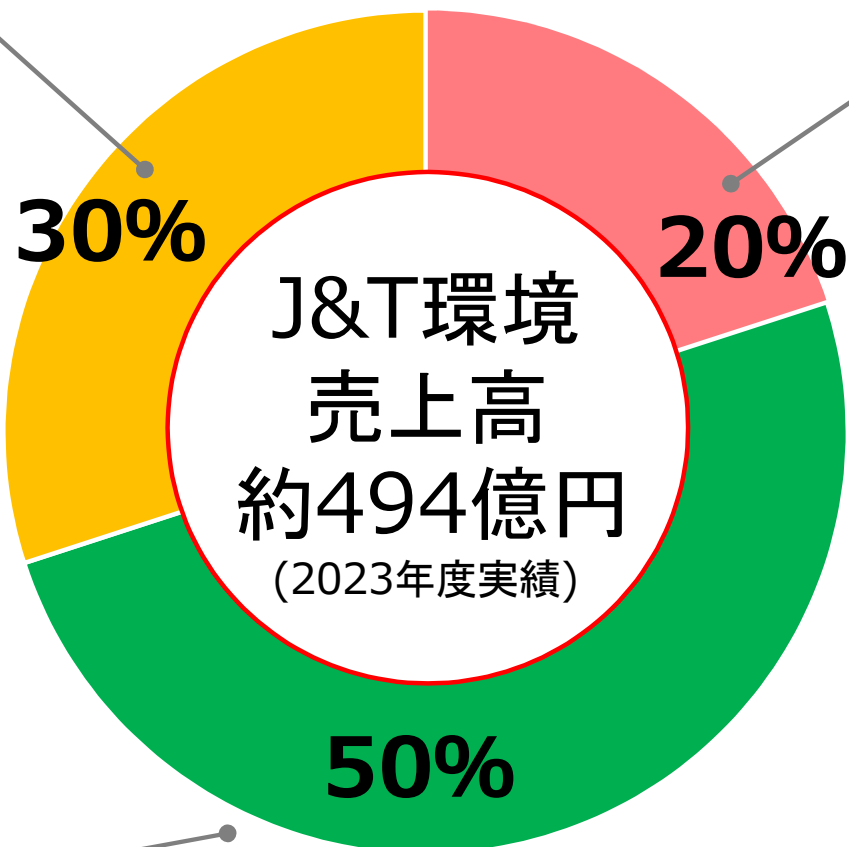
ソリューション事業



PCB処理



収集運搬



焼却・発電



東京臨海エコクリーン



川崎エコクリーン



横浜エコクリーン

リサイクル事業



PETボトル BtoB



使用済みプラスチック
リサイクル



食品リサイクル



家電リサイクル

食品リサイクル 横浜拠点(Jバイオフードリサイクル) 5



1.会社設立	2016年8月	5.出資 比率	JFEエンジニアリング(株)	10%
2.資本金	60百万円		J&T環境(株)	56%
3.建設期間	2017年6月~2018年7月		東日本旅客鉄道(株)	17%
4.操業開始	2018年8月		(株)JR東日本環境アクセス	17%



- ◆大規模な排出事業者
 - ・駅ビル等商業施設
 - ・材木等小売り



- ◆JRE Grの廃棄物管理



- ◆プラント建設ノウハウ保有
- ◆廃棄物ノウハウ保有
- ◆横浜市に処理拠点

【ニーズ】

- ・JREグループリサイクル率の向上
- ・再生可能エネルギーの創出推進

【ニーズ】

- ・リサイクル事業拡大

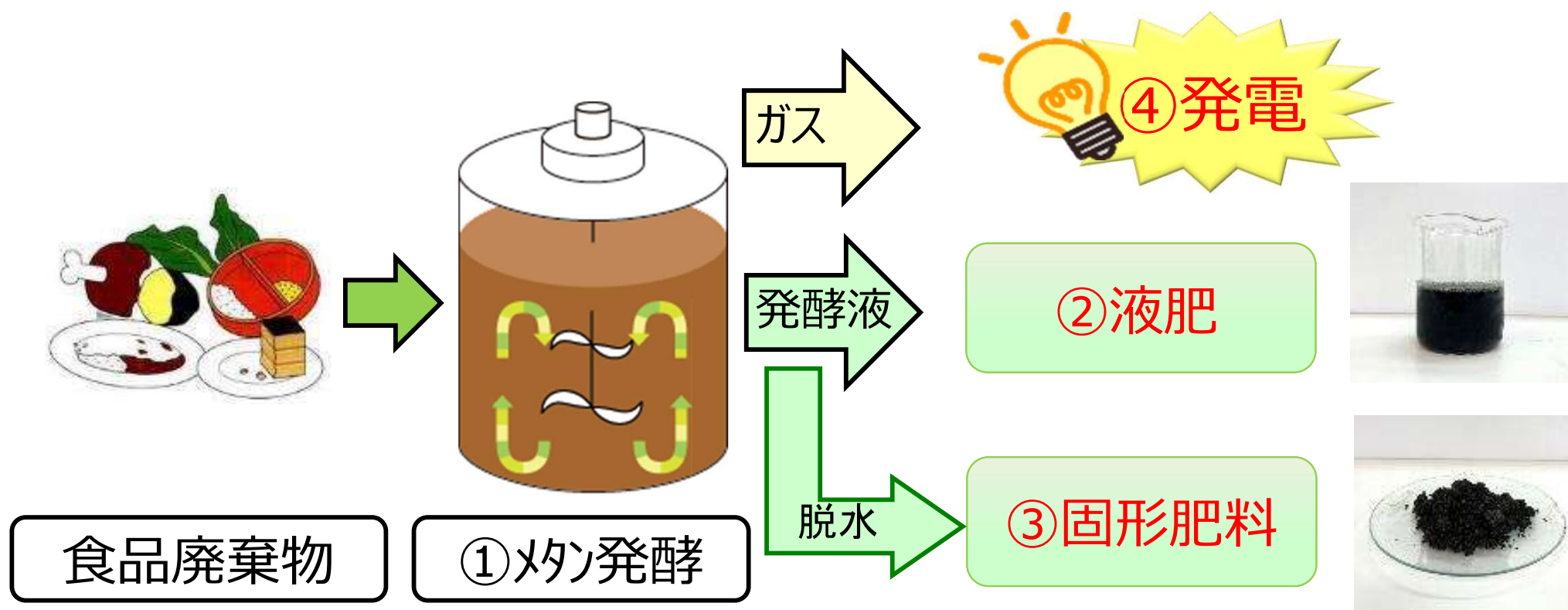
両Gr連携による事業推進に合意

横浜に工場を持つ会社設立

処理能力	120 t /日	固形80t/日 （産廃 & 一廃）
		液状廃棄物40t/日 （産廃）
処理方式	湿式メタン発酵方式	
発電設備	消化ガス用エンジン 900kW x 2台 780kW x 1台	
発電能力	約1,700万kWh/年⇒ 一般家庭約5,700世帯分	



- ①食品廃棄物を微生物の働きで発酵させます。(メタン発酵20日間)
- ②メタンガス発生⇒ガスエンジンで電気を創出し売電します。
- ③発酵後の発酵液 (水分97%) ⇒ 肥料登録済 (液肥)
- ④発酵液を脱水した固形物 (水分79%)
⇒ 肥料登録済 (固形肥料)



Ⅱ SDGsの取り組み



KANAGAWA SDGs PARTNER

神奈川県 | SDGs未来都市 私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。

かながわSDGsパートナー
2019年3月登録

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

Y-SDGs スーペリアクラス
2022年4月認証

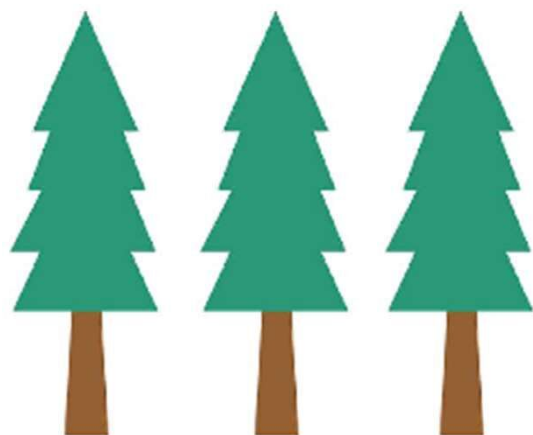
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



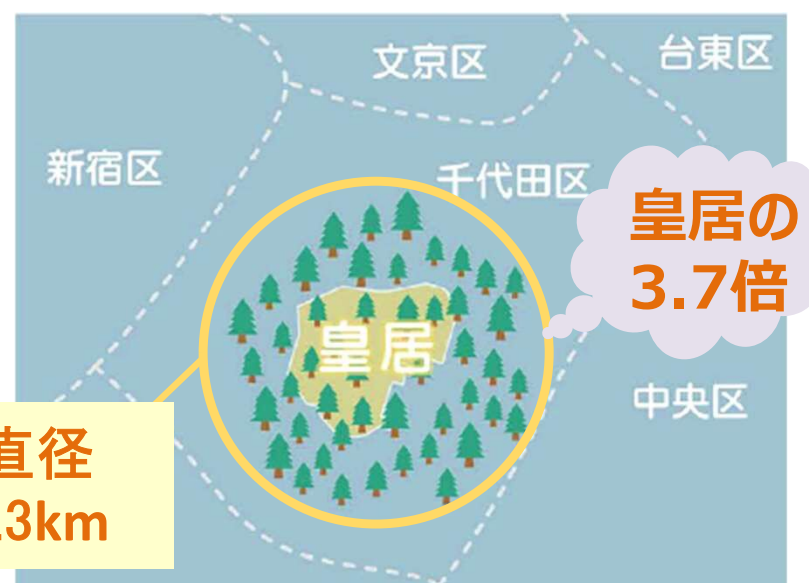
ターゲット7.2

再生可能エネルギーの割合拡大

- ・年間最大1,700万kWhの再生可能エネルギー創出に寄与
(一般家庭5,700世帯分)
- ・CO₂削減効果：約7,700 t -CO₂/年 (定格値)
(化石燃料を原料とした発電代替)



約87万本の杉林
(36～40年生) に相当



直径
3.3km

皇居の
3.7倍

リサイクル報告書



- ・23年度のCO₂削減量：6,939t-CO₂/年
- ・排出事業者向**リサイクル報告書発行**（受入れ廃棄物相当のCO₂削減量）
⇒ 排出事業者様のCSR、SDGs報告等で活用

2024年11月1日

リサイクル報告書

〇〇株式会社 殿

当社は、貴社が排出した食品廃棄物を「食品リサイクル法」に則って再生利用致しました。以下、ご報告いたします。

受入廃棄物名	動植物性残さ		
受入期間	2023年4月1日から 2024年3月31日まで		
受入量	100,000 kg		
リサイクル率	100%		
リサイクル場所	株式会社Jバイオフードリサイクル 横浜工場		
リサイクル方式	メタン化（バイオガス発電）		
バイオガス発生量	推定発生量	1,000 Nm ³	
リサイクル製品	①発電電力量	1,000 kWh	
	②肥料製造量	1,000 kg	
CO ₂ 削減効果	推定量	①発電電力由来	100 kg
		②肥料由来	100 kg
		計	200 kg



株式会社Jバイオフードリサイクル
代表取締役 藤山 佳秀

住所 神奈川県横浜市鶴見区弁天町3番地1
電話 045-505-7845
URL <https://www.j-bio.co.jp>

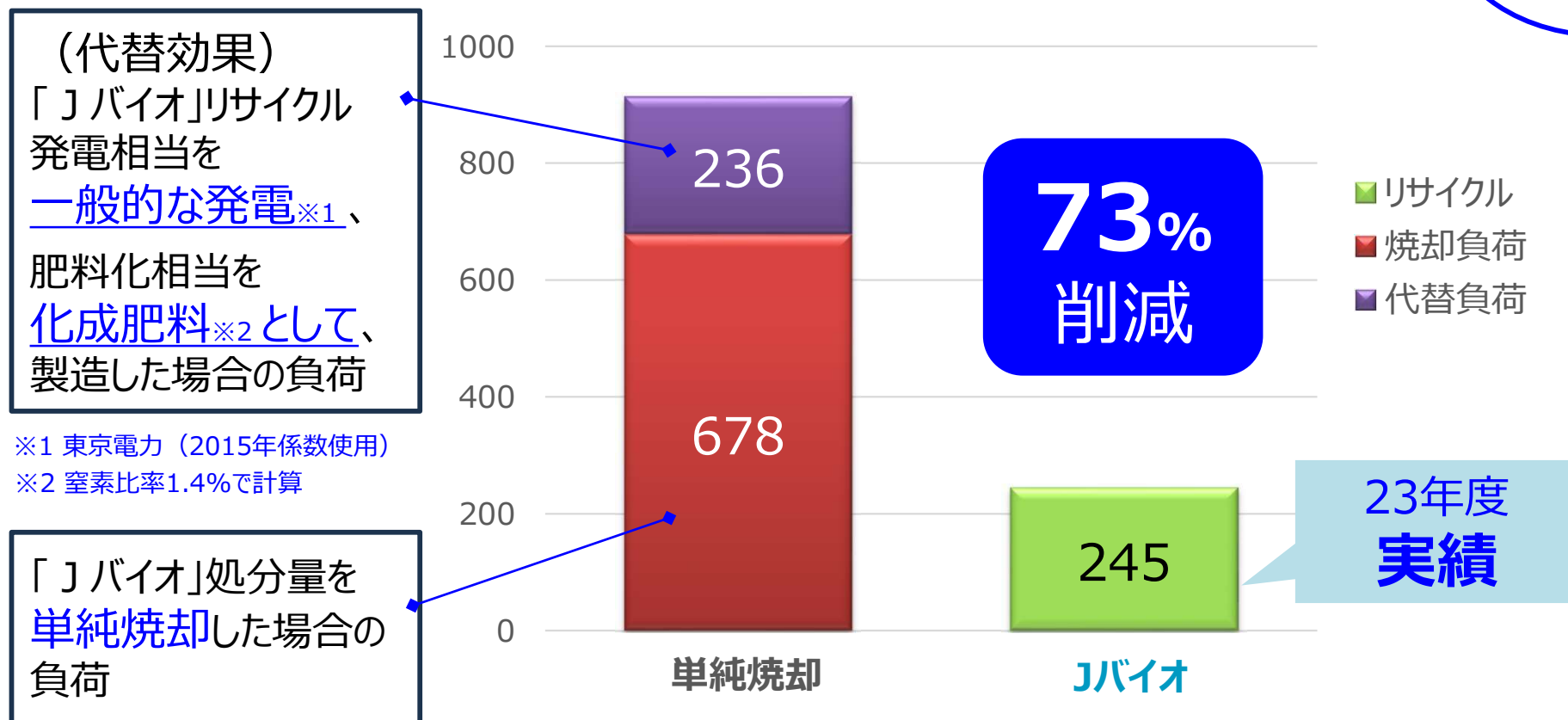
《記載事項》

- ・ 排出事業者企業名
- ・ 受入廃棄物名：食品廃棄物
- ・ 受入期間：X年X月X日～X月X日
- ・ 受入量：XX t
- ・ バイガス発生量：XXX Nm³
- ・ 発電量：XXX kWh
- ・ 肥料化量：XXX kg
- ・ CO₂削減効果：XXX kg

・電力リサイクル & 肥料化で、焼却処分時と比べCO₂排出量 **73%削減**

1t の食品廃棄物を処分する時のCO₂排出量(kg)

全量肥料化で
79%削減



外部の専門家(カーボンフリーコンサルティング株)監修済みの20年度LCA算定結果より、削減量を算出。
計算は基本的に当社の一次データを引用し、その他計算上の引用元は下記を参照。

- ・出典1：食品産業リサイクル状況等調査委託事業（リサイクル進捗状況に関する調査）報告書
- ・出典2：環境省「電気事業者別排出係数一覧」（令和5年提出用）及びIDEAv2.3データベース



- ・新電力と連携した『電力リサイクルループ』提案
- ・排出事業者とアーバンエナジー間で、電力買取契約を締結
⇒食品リサイクルで創出した電力相当分を還元する仕組み



(株)横浜国際平和会議場殿
(パシフィコ横浜) で
2019年8月から実運用中

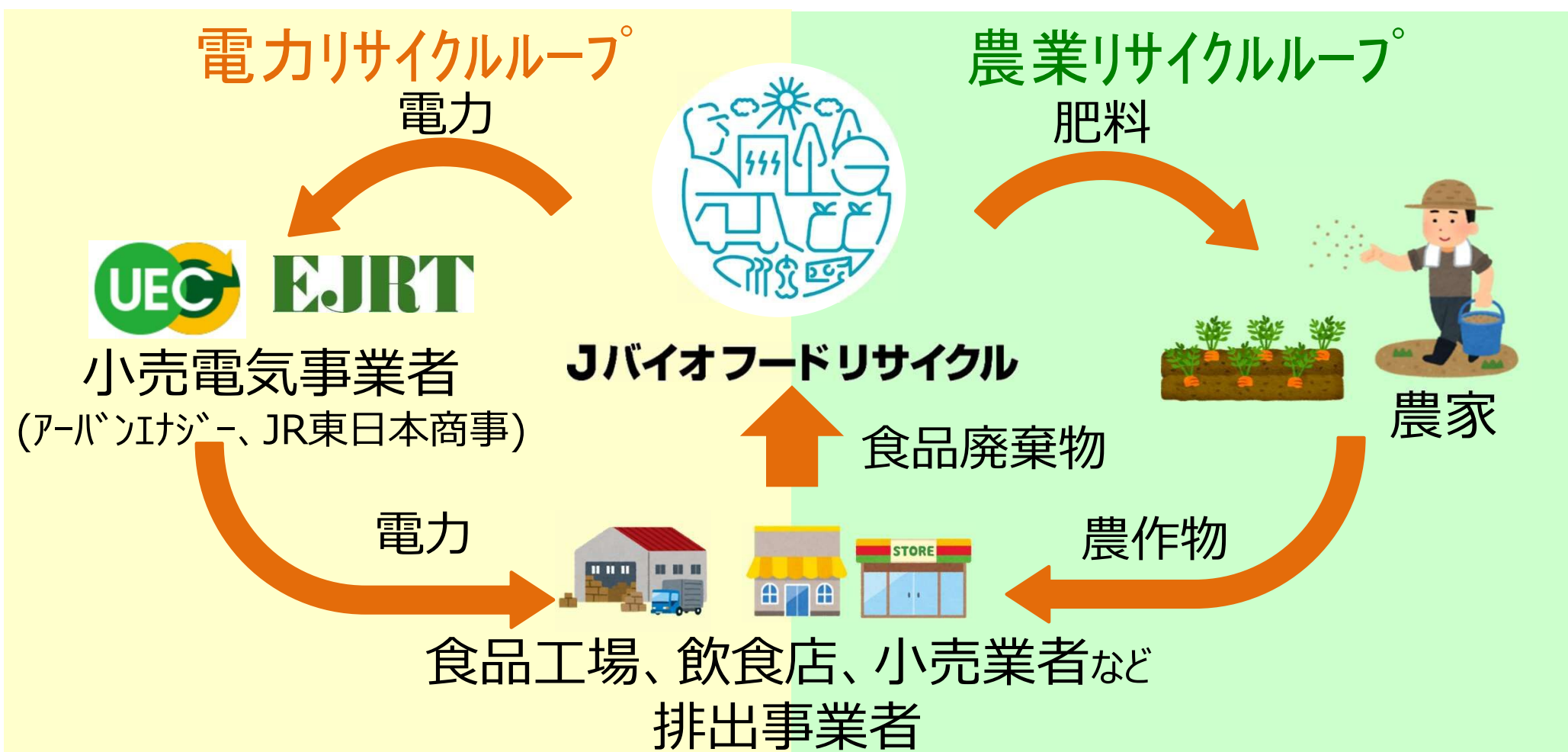


①電カルフ『創電割』：Jバィ電力⇒ア-バ`ンエナヅ-※⇒店舗に電力供給

※JFEインヅ Grの小売電気事業者

②農業ループ：発酵残渣の肥料登録（22年度9月）

→ Jバイオ肥料⇒農家⇒作物を排出事業者に戻す



電力リサイクルループ°



びっくりドンキー茅ヶ崎店
(株)アレフ



川崎キングスカイフロント
東急REIホテル



8件

ダブル リサイクルループ°



フォレストゲート代官山
(東急不動産)



スーパーFUJI(19店舗)
(富士シティオ(株))

2件

農業リサイクルループ°



JFEエンジニア社員食堂



アグリの森直売所
(エイジェックファーム)

2件



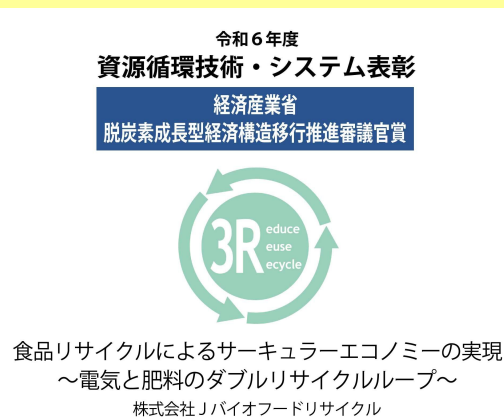


2023年9月：

第六回エコプロアワード 農林水産大臣賞受賞

『ダブルリサイクルループを備えた食品リサイクル
～電気と肥料で地域循環共生圏の創造～』

カーボンニュートラルの達成、サーキュラーエコノミーへの対応で高評価



2024年10月：

令和6年度資源循環技術・システム表彰

経済産業省 脱炭素成長型経済構造移行推進審議官賞受賞

『食品リサイクルによるサーキュラーエコノミーの実現
～電気と肥料のダブルリサイクルループ～』

ダブルリサイクルループ構築による循環型社会実現への貢献が評価



2025年2月：

エコアクション21オブザイヤー2024

環境経営レポート部門 環境大臣賞受賞

SDGsへの取り組みや、環境目標達成に向けた活動が評価

2022年度に続き
2度目の受賞！



全般について

株式会社Jバイオフードリサイクル

管理グループ

[TEL:045-505-7845](tel:045-505-7845)

(受付：9時～17時/土日祝定休)

[E-mail : hirabayashi-kanako01@j-bio.co.jp](mailto:hirabayashi-kanako01@j-bio.co.jp)

<https://www.j-bio.co.jp/>



廃棄物処分について

JFEグループ

J&T環境株式会社

営業本部

食品リサイクル営業室

[TEL:044-330-9477](tel:044-330-9477)

(受付：9時～17時/土日祝定休)

<https://www.jt-kankyo.co.jp/>